

県連・商工会等による支援の動き 9/22~9/30

9/30 富山県・立山舟橋商工会青年部が震災義援金を寄付

立山舟橋商工会青年部（佐藤泰助部長）は29日、立山町役場を訪れ、舟橋町長に「第5回たてやまドンドン祭り in 吉峰」（北日本新聞社後援）で集めた東日本大震災の義援金25万円を手渡した＝写真。町を通じ岩手、宮城、福島の3県に贈る。

祭りは「頑張ろうぜ日本 立山町から元気を」をテーマに8月21日に開いた。開催前から同町や舟橋村の商店、スーパーなどに募金箱を置き、祭り会場でも義援金を募った。

舟橋町長に義援金を手渡した佐藤部長は「祭りの会場では幼い子どもまで協力してくれた。皆さんの善意を有効に活用していただきたい」と話した。

9/30 三重県・桑名三川商工会が義援金付きの商品券を発行

桑名市の桑名三川商工会の「スタンプ・ポイントカード事業実行委員会」は10月1日、長島・多度両支所地区の加盟店で使用できる20%得な「プレミアム商品券」を発売する。

商品券は、同実行委員会が地域の活性化と消費拡大を目的に企画した。500円券24枚の1セットを1万円で1000セット販売する。1人10セットまで購入でき、売り切れ次第終了する。

商品券取り扱いのポスターが掲げられた両地区の加盟店40店のみで利用できる。有効期間は12月31日までとなっている。売り上げの一部は、東日本大震災への義援金として復興支援にあてる。

9/30 山形県・庄内町商工会工業部会などが復興支援チャリティー事業として宮城・南三陸町長の講演会を開催

庄内町の友好町・宮城県南三陸町の佐藤仁町長を招いた講演会が30日午後6時半から、庄内町の響ホールで開かれる。

佐藤町長は「東日本大震災 南三陸町の挑戦」の演題で、大震災の津波で甚大な被害を受けた南三陸町の現状などを語る。庄内町商工会工業部会、庄内町企業同友会、鶴岡法人会庄内町支部の3団体が、復興支援チャリティー事業として開催。入場料500円は義援金として南三陸町に送る。

9/29 栃木県・足尾町商工会などが東日本大震災救援募金として200万円を寄付

28日までに集計できた分として石巻市牡鹿稲井商工会と日光商工会議所がプレミアム商品券「日光とくとく商品券」の売り上げから200万円を東日本大震災救援募金として寄付した。

9/29 宮城県・石巻市牡鹿稲井商工会が毎週水曜日復興市を開催

宮城県石巻市鮎川の水曜日昼。中心部の公民館前駐車場でテント張りのマーケットが開かれている。名付けて牡鹿復興市場。のぼりに「心ひとつに がんばっぺ 宮城魂」の合言葉が躍る。八百屋、酒屋、魚屋など8店舗が並ぶ。人気は野菜や果物、豆腐、干物といった一般食料品。昼時とあって八百屋のレジには10人以上の列が出来ていた。

鮎川住民の日々の悩みは食料品や日用品の確保。震災前に120～130軒あった商店や飲食店が津波であらかた流失してしまったからだ。そこで、ボランティアが立ち上がり、石巻市牡鹿稲井商工会と協力して復興市を企画。6月29日に1回目を開き、以降、毎週水曜に定期開催している。

出店しているのは被災した地元業者。車で小一時間かかる石巻市街まで行かないとスーパーはないため、高齢者が多い住民にとって復興市は文字通り生活を支える台所だ。

商工会の遠藤忠晴・主任主査(39)は「住民の社交の場にもなって喜ばれている。仮設店舗の整備計画もあるが、完成するまでは復興市を継続していきたい」と話す。

9/29 栃木県・岩船町商工会青年部などが復興盛り上げる野外ライブを開催

岩船町の岩船山中腹にある採石場跡地を利用した毎年恒例の野外コンサート「岩船山クリフステージ#11」が10月2日に開かれる。東日本大震災の影響で岩船山の一部が崩落したが、安全性が確認できたため開催となった。震災復興のイベントも盛り込み、例年以上の盛り上がりを狙う。

会場の岩船山は町のシンボルとして親しまれ、かつては良質の岩舟石の産地として知られた。しかし、コンクリートの普及などで、岩舟石の需要は激減。残された採石場跡地と高さ約80メートルの絶壁を町おこしにつなげようと、町商工会青年部らでつくるNPO法人「岩船山クリフステージ」が2000年から野外コンサートを開いている。

崩落による落石があったのは、駐車場として利用してきた場所など。クリフステージのメンバーが5月頃、岩を撤去した。崩落した岩は、約6組のアマチュアバンドが出演するサブステージの土台として活用する。「震災から持ち直せ日本」という思いを込めて、岩舟石の石臼を使った餅つきも計画している。

ステージでは、沖縄県出身の女性4人の人気ポップスグループ「SPEED」と、島谷ひとみさんのライブも行われる。

9/29 東京都・武蔵村山市商工会が復興後押しする商品券を発売

武蔵村山市商工会（同市本町）は十月一日から、三月の震災で震度6強の激震に見舞われた姉妹都市の長野県栄村の復興支援を目的とした市内共通のプレミアム付き商品券「武蔵村山デエダラー」を売り出す。栄村の復興を後押ししながら、市内経済の振興にも役立てる。

栄村では三月十二日未明の地震で三人が死亡、約七百軒の家屋が損壊し、住民の一部は仮設住宅での生活を強いられている。「デエダラー」発行は三回目だが、今回は売り上げの0・4%を栄村への義援金とするほか、一部店舗では特定商品を購入すると、収益の一部が寄付される。

五百円券が二十二枚の額面計一万一千円分で、全店共通券が五千円分、中小店券が六千円分。一組一万円で一万組が販売され、市内の二百十三店舗で年内いっぱい利用できる。発売初日の一日は市役所庁舎と同市緑が丘出張所で、購入者から抽選で百人に栄村産りんごジュースかコメ五キロがプレゼントされる。

市商工会は「栄村の支援にもつながるので、ぜひ商品券を購入していただきたい」としている。

9/29 茨城県・北茨城市商工会が震災復興に向けた新たな取り組みとして、市民向け行商サービスを開始

北茨城市商工会は東日本大震災の復興に向けた新たな取り組みとして、市民向け行商サービスを開始した。主な対象は震災で仮設住宅や市公営住宅に暮らす避難生活者のほか、「買い物弱者」と呼ばれる交通手段を持たない高齢者で、商品を積んだキャンピングカーが出張販売を行う。取り扱う商品は鮮魚や生肉、干物、パンや菓子、缶詰や衣料、日用品など165種。訪問ルートは大津・平潟地区、磯原・華川地区、中郷地区の3路線で、21カ所を週3日かけて巡回。1カ所につき約15分ほど滞在する。

地域振興のため、商品は同会員の18業者から仕入れる。同市平潟町で干物販売を営むイゲジョウ塩屋商店の根本喜久雄さん（70）も事業者登録を行った一人だ。震災の影響で港の朝市が中止となり、自慢の干物を売る機会が減少。震災以降の総売り上げは前年比1割程度にとどまる。「行商サービスで光が見えれば」。根本さんは期待を込める。

サービスは顧客の要望に応じて、取り扱う商品以外の物品購入や自宅への配送も可能。接客機会を増やすことで、不安や孤独を抱える被災者の心の負担を軽減する狙いがある。同商工会の藤島匠さんは「避難者はコミュニティーを失い、孤独や悲しみを抱えている。家の外に出て、会話を楽しんでもらいたい」と話す。サービス開始となった16日。約300人の被災者らが暮らす同市中郷町石岡の雇用促進住宅に行商のアナウンスが鳴り響いた。「魚がほしいんだけど」「トイレトペーパーはある？」。そろそろと集まった入居

者から次々に声が上がった。津波で家を失い、同所に移り住んだ高沢節子さん（66）はレタスやサトイモなどの野菜類を中心に購入。「市街地に行かなくてもいいから助かる」と笑顔を浮かべた。サービスは12月16日までを予定しているが、反響に応じて継続を検討しているという

9/28 茨城県・銚田市商工会が復興青空市を開催

銚田市商工会は10月1日、同市塔ヶ崎の旧鹿島鉄道銚田駅隣地で「銚田市商工復興青空市」を開催する。各業種のPRや販売を行い、地域商工業の活性化を図る。模擬店やチャリティーバザー、1コイン市、軽トラ市、お楽しみ抽選会、ひよっこ大会などのイベント、復興千羽鶴を制作するコーナーなどもある。

9/28 茨城県・東海村商工会主催の朝市で震災被害の宮城県女川町産かまぼこを販売、収益は寄付へ

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた宮城県女川町産のかまぼこが、東海村で毎月末に開かれる朝市「とうかい元気市」で販売されている。女川町と仕事でつながりがある村内の企業経営者らが、被災地の産品を売ることで復興を手助けしようと、震災直後から始めた。

25日の朝市でも、「がんばっぺ女川」と書かれた手ぬぐいが飾られたテントの出店にかまぼこ1千個が並び、訪れた人々が買っていった。

とうかい元気市は村商工会が中心に、東海村役場で毎月末の日曜日午前中に開かれている。10月からは午前9時～正午。

9/28 北海道・中富良野町商工会などが復興支援のチャリティー寄席を開

益金を東日本大震災の復興に役立ててもらふチャリティー寄席が10月3、4日にそれぞれ南富良野町と中富良野町で開かれる。

出演は、落語の金原亭伯楽師匠と桂文生師匠、漫才のホームラン、奇術のアサダ二世。それぞれ町民団体が主催し、3日は南富良野町保健福祉センターみなくる、4日は中富良野町農村環境改善センターでいずれも午後6時半に開演する。

南富良野では、入場料が大人千円、60歳以上と障害者500円、高校生以下は無料。問い合わせは南富良野まちづくり観光協会。

中富良野では、入場料が千円、中学生500円、小学生以下は無料。問い合わせは中富良野町商工会。

9/27 岐阜県連が陸前高田商工会に会員向けのノートパソコンを無償譲渡

岐阜県商工会連合会（若林一会長）では、陸前高田商工会に無償譲渡するノートパソコン40台を9月27日、宅配便にて発送した。パソコンは陸前高田商工会を通じて今回の震災で被災し事業再開に漕ぎ着けた会員事業所へ無償で提供、配布される。岐阜県商工会連合会では少しでも役立ててもらえればと期待している。

岐阜県商工会連合会では県下46の商工会事務局で使用するノートパソコンを一括購入し、参加商工会へ貸出しを行っている。今回譲渡するパソコンは今年3月末まで商工会へ貸出しを行っており、期間満了で返却された115台の内、40台（残りは研修用機材として継続利用中）。中古パソコンショップ等で時価換算した場合には40万円程度（単価@10,000円×40台）のもので、4年間利用した中古であるが、業務ソフトの「Office」や「ウイルス対策ソフト」等はインストールされており、被災された事業者も設定作業等の必要なく「そのまま」利用できるように配慮している。

岐阜県商工会連合会は被災地の一日も早い復興を願い、引き続き支援を続ける予定。

9/27 埼玉県・鳩ヶ谷市商工会などが市合併と震災復興支援を兼ねた商品券を発行

10月に鳩ヶ谷市を編入合併する川口市で利用できる総額8億円のプレミアム付き商品券「きらり川口商品券」が11月、発売される。鳩ヶ谷市商工会と川口商工会議所とによる取り組みで、合併記念と景気対策に加え、東日本大震災の復興支援を兼ねているという。

特徴は、川口市内ではともに過去最高となる発行総額と割増率。参加全店で使えるプレミアム10%の共通券と、デパートなどの大型店では使えない同20%の専用券を発行し、1億円余を市が補助する。

発行日は11月10、13日。市内公共施設と各大型店の計36カ所で扱う。額面500円の共通券22枚と専用券24枚の1セットを2万円で購入できる。購入限度は1人あたり5セットで、有効期間は来年1月31日まで。鳩ヶ谷市商工会と川口商工会議所は、1500店舗を目標に事業への参加を募っている

9/27 滋賀県・湖北町商工会などが「小谷城ふるさと祭り」で復興支援

「江・浅井三姉妹博覧会」の開催で注目が集まる三姉妹に思いをはせる「小谷城ふるさと祭り」が10月2日、長浜市湖北町の博覧会場「小谷・江のふるさと館」一帯で開催される。今年は前夜祭が1日に湖北文化ホールで開かれ、祭りムードを盛り上げる。

同祭りは、地域の自治会や湖北町観光協会などでつくる「こほく地域フェスティバル委員会」の主催。まちおこしや歴史と文化の継承を目的に毎年実施しており、今年で26回目になる。プラスバンド演奏や「ゆるキャラ」のパフォーマンスに続き、剣舞や戦国風の

ストリートダンス、よさこいの演舞、恒例となった手作り甲冑（かっちゅう）の武者行列と寸劇など多彩なステージ発表がある。模擬店や東日本大震災の復興支援として東北の商品販売なども行われる。問い合わせは湖北町商工会へ。

9/26 滋賀県・木之本町商工会などが被災地の復興などを願い千燈会を開催

ろうそくの光に願い事を託す千燈会が二十四日夜、長浜市木之本町の木之本地蔵院として知られる浄信寺であった。

地元商店街で青竹や紙コップ、ガラス器の灯籠千個を手作りした。訪れた人は、灯籠に「家内安全」や「東日本大震災被災地の復興」などの願い事を書いて境内に置いた。

千個のろうそくの明かりが境内を照らし出すと、辺りは幻想的な雰囲気にもまれ、訪れた家族連れなどが風で揺れるろうそくの火を見つめていた。

東日本大震災や台風12号の被災地復興と地域の安全を願い、木之本町商工会と協同組合きのもと北国街道商店街が今年初めて企画した。献灯代は被災地に送られる。

9/25 富山県・宇奈月商工会などが産業物産展で復興支援

産業物産展「くろべフェア2011」は24日、黒部市総合体育センターで始まった。市内147の企業や商店、団体が独自の技術や製品、自慢の味覚を紹介している。東日本大震災からの復興を支援しようと、東北地方の特産品販売も行う。25日まで。

宇奈月町商工会と黒部商工会議所、黒部市が主催している。産業の振興とPRが目的で、ことしで56回目になる。会場には市内の各企業がブースを設置して新製品やオリジナルの技術を紹介。豪華賞品が当たる抽選会や、黒部の魅力や特産品をクイズ形式で問う「黒部マチヂカラ検定」が行われた。市内の飲食店が出店した「美味しんぼコーナー」もにぎわった。

市内外の吹奏楽部や音楽隊による演奏のほか、パトカーや消防車が並ぶ「KUROBE働く車展示会」もあり、子どもの人気を集めていた。

25日はよさこい披露や、往年の名車が勢ぞろいする「黒部クラシックカーミーティング」などの催しがある。

9/24 福島県連が原発賠償に係る被災中小企業向け個別相談会を開催

県商工会連合会は10月3～5日の9～16時、県内各地で被災した中小企業向け個別相談会を開く。直接、間接の被害、風評被害も含め弁護士に直接相談できる。無料だがファクスで申し込みが必要。受け付けは26～28日のいずれも8時半～17時。各会場とも定員（60人）に達した場合は締め切る。申し込み後、しばらくしても連絡がない場合

は電話確認を。

申込書は商工会ホームページ（<http://www.chabudai.net/saigai/2011092101.html>）から印刷できる。各会場の開催日、場所と申し込みのファクス番号は以下の通り。

会津＝3日、会津若松商工会館。0242・38・2124

県中・県南＝3日、安積町・西郷村の各商工会館。024・937・0082

県北＝4日、伊達市商工会霊山支所、川俣町・あだたらの各商工会館。024・525・3413

いわき＝5日、好間町商工会館。0246・25・1013

各会場の問い合わせ先は、会津電話0242・28・0731▽県中・県南電話024・945・7860▽県北電話024・525・3411▽いわき電話0246・25・1011

9/24 みやぎ仙台商工会がイベント「泉マルシェ」を開催、被災地区からも数多く出店

仙台市泉区の市地下鉄泉中央駅前のペデストリアンデッキで23日、フランスの屋外市場をイメージしたイベント「泉マルシェ」が開かれた。

宮城県内のほか山形、福島、東京から計119店が出店。カレーやソーセージ、ビールを提供したり、日用雑貨や産直野菜を売ったりするテントが並び、大勢の人でにぎわった。東日本大震災で被災した宮城県沿岸部からも数多く出店した。

石巻市の斎藤佳子さん（37）、阿部優子さん（32）、石田愛さん（31）は古着を活用した手作りの「布サンダル」を販売した。3人とも震災で職を失い、サンダルを売って家計の足しにしてきたといい、阿部さんは「こうしたイベントに積極的に参加していきたい」と話した。

主催したみやぎ仙台商工会（泉区）の佐藤浩会長は「いずれはペデストリアンデッキに常設店舗を設け、泉中央駅前をにぎやかにしたい」と語った。

9/24 鹿児島県南九州市・穎娃町商工会青年部が震災復興チャリティーイベントを開催

南九州市の穎娃町商工会青年部が18日、「えいのコッソイマルシェ（市場）」と題して瀬平公園で震災復興チャリティーイベントを開催。コッソイとはコッソリの意味で、東日本大震災直後に寄せられ現地に送ることができなかった衣料品など販売。売上金は全額震災募金として寄付する。花、雑貨類の販売やお茶の試飲もあった。

9/23 福岡県・小郡市商工会青年部主催の「スイーツフェスタ」で復興支援

小郡市と周辺市町のお菓子を集めた「スイーツフェスタ」が10月2日、小郡市大板井の市生涯学習センターである。4回目の今回はお菓子を懸け橋にして東日本大震災からの復興を支援しようと、被災した宮城県石巻市などで撮影した映画「エクレール・お菓子放浪記」を前夜祭として1日午前11時と午後2時から上映。収益の一部を義援金にする。

同フェスタは、市内の菓子店のファンを増やし市外から繰り返し足を運んでもらおうと、市商工会青年部が企画。今回は12の菓子店が出店する。飲食スペースではジャズ奏者や福岡のご当地アイドルのステージがあり、お菓子教室やお菓子のオブジェの重さ当てコンテストも開く。また、映画のタイトルのエクレール（エクレア）にちなみ、映画の半券を持参した先着500人にエクレアを配る。

同フェスタ実行委の深町幸広委員長は「小郡から被災地に元気を届けるいい機会。まず、小郡に来た人がお菓子で笑顔になってほしい」と話している。

9/22 栃木県小山市・間々田商工会が主催のイベントで義捐金活動

間々田商工会主催の「第9回曼珠沙華（まんじゅしゃげ）まつり」が24日、市博物館近くの乙女かわらの里公園で開かれる。

ステージは乙女中吹奏楽部の演奏で幕を開け、地元幼稚園児や愛好家たちがハーモニカ演奏、日本舞踊、おはやし、ダンス、太極拳、和太鼓などを披露。歌謡ショー、よさこい踊りも祭りを盛り上げる。

会場内には商工会員による展示コーナーや売店も並び、来場者を対象とした抽選会も行われる。今回は、東日本大震災の被災地復興支援として会場内に募金箱を設置する。